

# 1位に名器貸与

Topics 田本音楽コンクール

## 1位に名器貸与

日本のクラシック音楽界の未来を形作る第86回日本音楽コンクールの応募受け付けが始まりました。この流れ、以前にも増して日本音楽コンクールの入選。

入賞者が国内外で大活躍し、また海外の大コンクールも制していることから、一段とこのコンクールへの注目度が高まっている。

第86回は演奏部門がチェロ、ピアノ、バイオリン、声楽、ホルン(予選開始順)で行われ、作曲部門は室内楽が課題の年に当たる。改変点など注目されるところを見てこう。

チェロ部門は3年に一度の開催。現在、日本の若手チェロ奏者は「第2次黄金時代」と呼ばれるほど逸材がひしめいているため、今回もかなりのハイレベルになると予想される。「黄金時代」の一人、第80回で1位になった岡本佑也さんがエリザベート王妃国際音楽コンクールに

今年新たに加わったチェロ部門で2位になり、一層、日本の若手チェロ界が活気づいている。

■ ■

ピアノ部門は、本選で演奏する協奏曲を参加者があらかじめ選んで申請する方式に変わりはないが、選べる選択曲のラインアップが少し変更された。このように反田恭平さん、樋口一朗さんなど1位受賞者の選択曲にラフマニノフのピアノ協奏曲第3番が連続したことを見られるように、本選に申請される曲が重く大きなロシア物に集中しがちになる。しかししても超絶的なテクニックを披露する方向に走るので、今回はラフマニノフの『ピアノ協奏曲第3番』と『パガニーニのテーマによるラブソディ』、プロコフィエフの『ピアノ協奏曲第2番』などが外され、選択の幅が若干、狭められた。



前回ピアノ部門1位の樋口一朗さんは東京都新宿区の東京オペラシティホールで丸山博撮影

### 第86回日本音楽コンクール 審査日程

#### <予選>

作曲部門(室内楽曲、非公開)

第1譜面審査 8月24日(木)

第2譜面審査 8月25日(金)

チェロ部門

第1予選 8月29日(火)~31日(木)

第2予選 9月1日(金)

ピアノ部門

第1予選 9月2日(土)~6日(水)

第2予選 9月8日(金)~10日(日)

第3予選 9月12日(火)

バイオリン部門

第1予選 9月13日(水)~15日(金)

第2予選 9月16日(土)、17日(日)  
第3予選 9月18日(月・祝)  
声楽部門(オペラ・アリア)  
第1予選 9月19日(火)、20日(水)  
第2予選 9月25日(月)

ホルン部門

第1予選 9月21日(木)、22日(金)  
第2予選 9月24日(日)

#### <本選>

ピアノ部門 10月21日(土)16:00開演  
バイオリン部門 10月22日(日)16:00開演  
チェロ部門 10月23日(月)17:00開演  
声楽部門 10月24日(火)17:00開演  
ホルン部門 10月25日(水)17:00開演  
作曲部門 10月26日(木)15:00開演

バイオリン部門は今年の最大のトピックになるだろう。今回から、1位受賞者に、一般財団法人ITO-Hからバイオリンの名器が2年間無償貸与されることが決まった。

名演奏家の多いが「楽器から教わる」と明言するように、良い楽器を手にするだけで音楽的に着しく伸びる可能性が開かれると。同財団は「日本の音楽芸術の普及と向上を図る」ことを目的にしているから、日本音楽コンクールに協力するといふに

なった。

名器は、1716年製のストラディバリウスと1779年製のガダニーニの2丁。この2丁を交互に貸与するので、毎年の1位受賞者への2年間の貸与が可能になる。今年のストラディバリウスからのスタートする。これほどの名器を貸与するコンクールは、楽器貸与団体を目的にしたコンクール以外で、エリザベート王妃国際音楽コンクールなど世界でも数少ない演奏部門の応募締め切りは7月21日。作曲部門は8月3日。予選チケットは発売中。公式サイトは(<http://www.mainichi-classic.jp/>)。